



(C) allsports.jp



◀全日本ジュニア新体操選手権で4位入賞した団体の演技

▶揃って入賞を果たした華舞翔の中学3年生トリオ。中央が吉田さん。将来、この3人が日本を沸かせる日が来るかもしれません

◀全日本ジュニア新体操選手権でのロープの演技。この種目を含め3種目でノーミスの演技を披露。抜群の安定感で見事に初優勝を飾りました



念願の全国優勝

第32回全日本ジュニア新体操選手権大会は10月24日から26日までの3日間、東京の国立代々木競技場第一体育館で開かれ、猪苗代中3年の吉田和真さんが初優勝を飾りました。

男子個人には地方予選を勝ち抜いた42人が出場。吉田さんは4種目のうちスティック、リング、ロープの3種目で優勝、クラブで2位となり、総合優勝の栄冠を手に入れました。

吉田さんは弟の祥真さん(猪苗代中2年)らと共に、所属する華舞翔新体操倶楽部(山田志津子代表)のメンバーとして団体戦にも出場し、4位に入賞しました。

10月30日、宇南山忠明校長と

なる人は多いといいます。

吉田さんが新体操と出会ったのは5歳の時。カメリーナで開かれた体操教室に参加し、その時に講師を務めた同倶楽部男子監督の山田智史さんに誘われたのがきっかけでした。

「試しに練習を見に行ったら、すっかり新体操の魅力にはまっただようです」と母の裕子さん。すぐに入部を決め、それ以降

共に町役場へ報告に訪れた吉田さんは「今まで10年間やってきて、やっと優勝できた。これも両親や学校の協力のおかげ」と感謝を述べました。前後公町長は「優勝は長年にわたる努力のたまものであり、町民の誇り」と活躍をたたえました。

新体操との出会い

新体操の種目は、男女別に分かれています。女子は柔軟性が高い華麗な演技が特徴であるのに対し、男子は美しさと力強さを併せ持つのが大きな特徴です。男子新体操の代名詞ともいえるタンピング(バック転や宙返りなどの転回技)のスピードとダイナミックさは圧巻で、一度見ればその魅力のとりこに

は両親の送迎で喜多方市や会津若松市に通い、練習に励む毎日。「今までに一度も練習に行きたくないと言ったことはありません。土、日も練習があるので、家族で旅行に行ったことはほとんどないですね。遠征が旅行代わり。と言っても、観光する時間は全くありませんけどね」と体育館の片隅で練習を見守る父、博之さんは笑います。

ハーイ、きらりさん Special

吉田和真さん

全日本ジュニア新体操選手権大会で優勝
5歳の時に初めて見た、美しく力強い演技
その魅力に引き込まれ、スティックに
新体操にのめり込む15歳

Profile よしだ・かずま

猪苗代中3年。華舞翔新体操倶楽部(喜多方市)所属。5歳から新体操をはじめ。小学5年生の時、中学生までで争う全日本ジュニア新体操選手権大会の東北地区予選で優勝、全国大会出場を果たし、一躍脚光を浴びる。中学1、2年時にも全国大会に出場。ミスに泣き、今まで思うような結果が出せなかったが、4度目の挑戦で念願の初優勝を果たした

身近なライバルと切磋琢磨

「うちにエースはいません。強いて言えば3人がエース。和真のほかにも中学3年生が2人いますが、誰が勝ってもおかしくない。今回、和真が勝つたのは、3人の中で一番ミスが少なかったということですよ」と山田監督。その3人が揃って全日本ジュニア選手権に出場し、それぞれ優勝、準優勝、8位入賞。同倶楽部の高い指導力に加え、身近にいるライバルと互いに切磋琢磨しながら、日本一を獲れるほどの技術と精神力を身に付けてきました。

大きな夢に向かって

さらなる高みを目指すため、親元を離れて新体操に取り組み決意をした吉田さん。インターハイなどの全国大会で毎回上位に入る新体操の名門、青森山田高校への進学を目指し、中学生最後の大会を終えた現在も、毎日練習に通っています。「これからもっと活躍して、新体操を世界に広めていきたい。オリンピックで行われるような、メジャーな競技にしたいです」。夢を語るその瞳は、ひととき輝いていました。

「これからもっと活躍して、
新体操をメジャーな競技にしたい」